

平成 29 年度
事業評価に関する意見書

平成 29 年 12 月 7 日

泉区地域協議会

目 次

1	平成 29 年度事業評価について	1
	(1) 評価対象事業及びグループ編成	
	(2) 評価項目	
	(3) 評価方法	
	(4) 事業評価に関する意見書作成の考え方	
	(5) スケジュール	
2	平成 29 年度事業評価に関する意見書	
	(1) 地域力支援事業	3
	(2) 「食とくらし」の安全・動物愛護推進事業	5
	(3) 広報事業／広報よこはま泉区版の発行	7

1 平成 29 年度事業評価について

(1) 評価対象事業及びグループ編成

◎はグループリーダー

グループ	対象事業	地 区	氏 名
	地域力支援事業	全員	
	広報事業／広報よこはま泉 区版の発行	中川	◎ 小泉 正彦
		緑園	成田 俊人
		新橋	藤野 美智子
		和泉北部	成澤 誠
		和泉中央	松浦 紀明
		下和泉	小森谷 克己
		富士見が丘	八木 勇喜
		上飯田	馬場 勝己
		上飯田団地	佐野 瞳
		いちよう団地	町田 ふみ子
		中田	佐々木 弘美
		しらゆり	衛藤 隆知
	「食とくらし」の安全・ 動物愛護推進事業	中川	北原 勉
		緑園	長谷川 幹夫
		新橋	相原 重幸
		和泉北部	◎ 稗田 茂麿
		和泉中央	佐藤 慎
		下和泉	谷村 勝彦
		富士見が丘	小林 俊彦
		上飯田	永元 勲巳
		上飯田団地	鈴木 なをみ
		いちよう団地	臼井 春枝
		中田	飯島 猛旦
		しらゆり	星 幹雄

(2) 評価項目

- ア 事業の必要性
- イ 事業の進め方
- ウ 事業の達成度
- エ 事業の投資効果
- オ 事業の成果
- カ 事業の将来性

(3) 評価方法

- ア 聴き取り（ヒアリング）による調査
- イ 資料による調査

(4) 意見書の構成

事業評価に関する意見書は、事業概要、主な事業構成のほか、総合評価及び提言・提案について記載しました。

(5) スケジュール

評価関連の作業は、次の日程で実施しました。

日程	会議種別	内容
9月14日（木）18:30～	定例会	今年度の事業評価の進め方、対象事業の決定
9月28日（木）18:00～	部会	対象事業ヒアリング
10月19日（木）18:00～	部会	グループ検討
11月9日（木）18:00～	部会	意見書まとめに向けたグループ検討、全体共有
12月7日（木）18:00～	部会	事業評価に関する意見書のとりまとめ
12月7日（木）18:30～	定例会	事業評価に関する意見書の提出

1 地域力支援事業【区政推進課・地域振興課・福祉保健課】

【事業概要】

○地域力支援事業【泉区自主企画事業・市民局区配事業】

高齢者世帯の見守り、防災や防犯、交通安全、子育て支援など、日常生活の幅広い分野で展開されている地域活動の継続・充実に向けた活動の基盤となる自治会・町内会の役員や各種委嘱委員等の支援の取組。あわせて現役世代を含めた幅広い方々の地域活動への参加の促進と様々な地域課題の解決に向けた地域の取組の支援。

【平成 29 年度予算額（平成 29 年度新規事業）】

- 泉区自主企画事業 4,192 千円
- 市民局区配事業 3,543 千円

【主な事業構成】

- 1 地域活動の初任者等に対する支援
 - ・補助金申請手続の相談や地域活動情報や活動事例等の提供等
 - 2 地域活動の担い手育成
 - ・地域活動に関する講演会の開催等
 - 3 地域の課題解決に向けた取組に対する支援
 - ・地区経営委員会活動支援、地理情報システムを用いた地域分析等
 - 4 協働の「地域づくり大学校」事業、元気な地域づくり推進事業【市民局区配】
 - ・「泉区まちづくりみらい塾」の開講、まちづくりコーディネーターの派遣
- ※ 区民活動支援センター事業【一部、市民局区配】
- ・人材バンク、参画のきっかけづくり事業、活動団体支援等

【総合評価】

自治会町内会をはじめとした地域活動がこれからも継続するよう、引き続き重点的に継続して担い手支援に取り組む必要がある。

区として担い手支援に取り組む姿勢や方向性は評価したい。また、幅広い年齢層を取り込もうとする取組は概ね評価できる。

【提言・提案】

1 地域活動の初任者等に対する支援

自治会町内会の役員に輪番で就任した初任者が迷うことなく役割を果たせるよう、必要な情報提供と負担軽減を強化していただきたい。地域活動の経験やノウハウに応じて、誰もが地域活動に関われるような環境づくりにつなげてほしい。

- (1) 補助金申請手続き等に係る相談は、大変有益。補助金以外への拡大
- (2) 役員、委嘱委員にかかる負担の把握と具体的な軽減策の実施
- (3) 地域活動に携わっている人に役立つ情報の精査と発信
- (4) インターネットを活用している現役世代や若い世代に地域活動の魅力を発信するため、泉区ホームページを充実

2 地域活動の担い手育成について

自治会町内会をはじめとした地域活動の担い手の育成が急務となっており、有効な手法の開発が望まれる。また、担い手の育成では、若い世代を取り込んでいく必要がある。

- (1) 受け身の講座や講演会ではなく、参加者同士での取組事例の紹介や仲間づくりができる体験型、参加型の機会の提供
- (2) 実際に活動している人の経験談や苦労話、成功体験を聴く機会の提供
- (3) 「泉区まちづくりみらい塾」の魅力発信と受講修了者への支援

3 地域の課題解決に向けた取組に対する支援

地域住民が主体的に地域活動に取り組むためには、行政の支援は欠かせない。地域活動に必要な情報の提供や区職員等のコーディネート力の強化等の一層の充実が必要である。

- (1) 地域支援に従事する区職員等のコーディネート力の強化
- (2) 「地域と区をつどい」の運営方法等の再検討
- (3) 地域分析結果の地域への還元、地域課題の共有

4 新たな担い手の発掘・確保について

新たな担い手を発掘・確保すると同時に、既存の地域活動団体等とのマッチングやコーディネートを一層の充実・強化を図ることで、地域活動の活性化や持続化が必要である。

- (1) 区民活動支援センター「泉区人財バンク」における多様な地域人材の発掘・確保
- (2) 自治会町内会、市民活動団体等と地域活動に関心のある区民とのマッチング機能の充実
- (3) 区民活動支援センター、区民利用施設等によるコーディネート機能の強化

2 「食とくらし」の安全・動物愛護推進事業 【生活衛生課】

【事業概要】

○「食とくらし」の安全・動物愛護推進事業【泉区自主企画事業】

食中毒予防など「食の安全・安心」やハチの駆除、動物との共生など「くらしの安全」に対する高い関心に応えるため、関係団体と協議して普及啓発を実施

さらに「食とくらしの安全」のために、食品取扱施設、社会福祉施設等の衛生管理の向上を支援

【平成 29 年度予算額（平成 28 年度決算額）】

○泉区自主企画事業 769 千円（770 千円）

【主な事業構成】

- 1 食の安全・安心サポート事業
 - ・ 公共施設等に対する衛生管理指導及び啓発
- 2 ハチ自主駆除支援事業
 - ・ 貸出用のハチ駆除機材等の配備、自主駆除の推進
- 3 犬猫適正飼育啓発事業
 - ・ 犬や猫等のペットの飼い主に対するマナー指導
- 4 蚊媒介感染症防止啓発事業
 - ・ 感染症の発生防止のための啓発、駆除機材の貸出等の実施

【総合評価】

本事業は、区民が安心安全な日常生活を営むため必要不可欠なものである。

衛生教育等の実施や飼い主のマナー指導や不妊去勢手術等の啓発活動の実施等なされており、本事業は適正に業務を執行しているものと評価する。

【提言・提案】

1 公共施設等への衛生管理対策

食の安全安心サポートのため、関係団体と協働し、普及啓発を実施することが求められる。また、公共施設への衛生管理等の整備を促進する必要がある。

- (1) 小学生の段階から手洗いの徹底等衛生に対する重要性の周知
- (2) 積極的に地域向け出前講座等を開催し、簡易検査器具（手洗いチェッカー）等を使用したわかりやすい衛生指導の実施と公共施設への貸出の実施
- (3) ハンドソープの設置の促進

2 ペットの取り扱い方について

犬や猫などの飼い主に対するマナー指導の強化が望まれる。また、災害時のペットの取り扱いについて行政の支援が必要である。

- (1) 毎年実施されている狂犬病予防注射時の「飼い方」マナー啓発に加え、様々な機会を通じた継続的な啓発の実施
- (2) 飼い主のいない猫の扱い方に対して、地域と積極的に協議しながら具体的対策の検討
- (3) 避難所のペットの取り扱いについて、「地域防災拠点」開設・運営マニュアルに基づき、その拠点に見合った対策の検討を支援

3 ハチ等による事故、蚊による感染症等防止に向けた幅広い情報の周知

ハチ駆除や蚊駆除方法について、住民の相談に応じて駆除用機器の貸し出しに応じているが、事業を区民へ広めていくことが大切である。

4 事業全般のPRの必要性

全体的に事業のPR不足が認められる。区民に広く周知させるためのわかりやすい啓発方法の検討が必要である。

- (1) 回覧・地域の掲示板を利用するなど周知方法の工夫
- (2) 充実した内容の魅力的なパンフレットの作成の検討

3 広報事業／広報よこはま泉区版の発行 【区政推進課】

【事業概要】

○広報事業【泉区自主企画事業】

区民の理解を深め、共感を得、行動につなげていくため、区が保有する各種広報媒体(広報よこはま泉区版、泉区ホームページ、ツイッター等)の効果的な活用、泉区民に区の行政情報や地域情報、生活情報を的確に発信

【平成 29 年度予算額（平成 28 年度決算額）】

○広報事業 7,321 千円（7,134 千円）
* 広報よこはまの泉区版の発行 5,637 千円（5,323 千円）

【主な事業構成】（広報よこはま泉区版の発行）

タブロイド判四色刷 16 ページの「広報よこはま」のうち、5～12 ページの 8 ページを市版との一体感を保ちながら、泉区版として編集、毎月 1 日に発行。

* 約 65,000 部／月

* 泉区版制作単価 約 5.7 円／1 部 8 ページ分

(デザイン費 1,401,840 円 + 印刷費 3,077,882 円) ÷ (65,000 部 × 12 月)

- 1 編集方針・年間計画の策定
- 2 広報推進チームによる検討
- 3 アンケートの実施

【総合評価】

広報よこはま泉区版の発行事業に関しては、泉区独自の取組によって様々な工夫が凝らされ、随時改善されており、区民に親しまれている広報紙となっていることから、概ね良好と評価できる。

【提言・提案】

1 紙面構成について

文字や色遣い、紙面の構成については、読みやすい紙面となっているため、今後も読者を引きつけるよう魅力的で読みやすいものとするのが求められる。

- (1) 継続した読みやすい紙面づくりの実施

(2) 紙面構成についても、トピックス、掲示板、特集、お知らせといった構成はよいと考えられるが、固定的にならず、読者の要望やその時々的情勢によって弾力的な紙面づくりをしていくことも必要

2 読者層の拡大

情報の提供という意味合いからも、伝えたい人に読んでもらえるような紙面づくりが求められる。

(1) 記事の内容を知ってほしい世代に、読んでもらえるような工夫が必要

たとえば、泉区内小・中学校の活動を積極的に掲載し、子育て層に興味を持ってもらうことや、紙面媒体に慣れ親しみの薄い世代を引き付ける内容などを検討することが必要

3 住民意見の反映

住民意見を反映させ、構成や内容を見直していくことは重要なため、定期的にアンケート調査を行うことが必要

(1) アンケートについては、世代別に広報のあり方や広報に期待することなどを把握し、地域の担い手となるような年齢層の声を拾うことも必要

(2) 住民からの声を踏まえ、随時見直しをすることは重要であるため、今後も継続して実施することが必要

4 全体について

紙面の検討や年間計画の策定のため、区全体として横断的な連携が必要である。

(1) 広報推進チームの活用に関しては、読者目線のチェックと同時に、各課の横断的な業務連携の展開が大切

(2) 年度ごとの編集方針策定は必要と考えるため、今後も実施することが必要

(3) 記事の作成にあたっては、引き続き、机上だけで済ませるのではなく、現場に寄り添った記事を掲載していくことが必要